

8 体育・保健体育

I 本県が目指す体育・保健体育科の授業

運動や健康の課題を、仲間と共に試行錯誤しながら追究し解決する
体育・保健体育科の学習

II 教材研究の充実

体育・保健体育科における教材研究のポイントとその具体

小学校第3学年及び第4学年における 小3「フラッグフットボール」の例

子供の視点から

資質・能力、子供の実態の把握

本単元に関わる資質・能力の定着状況、興味・関心の程度を観察やアンケート等で把握する。

- ・低学年で設定した「ボール運び鬼」では、相手（鬼）にマーク（フラッグ）を取られないように、空いている場所を見つけて、速く走ったり、急に曲がったり、身をかわしたりすることができた。
- ・少人数で連携して相手をかわしたり、走り抜けたりする方法について、動作や言葉で友達に伝えることができた。
- ・順番や規則を守り、安全に気を付けて、誰とも仲良く運動遊びができていた。
- ・運動が苦手な児童や運動に意欲的でない児童も、チーム内での役割が分かるようにしたり、場の設定や規則を易しくしたりしながら取り組むことができていた。

教材の視点から

教材化の研究

扱う運動の楽しさと喜びに触れるため、各内容の既習事項や系統性、子供の実態、単元終末で目指す子供の姿の具体等を踏まえ、場や用具、グループ編成の視点から活動を工夫する。

【中学年のゲームの特性】

- 規則を工夫したり作戦を選んだり、集団対集団で友達と力を合わせて競い合ったりする楽しさや喜びに触れることができる運動である。
- ・ゲームの楽しさや喜びに触れ、基本的なボール操作とボールを持たないときの動きによって易しいゲームができるようにし、低学年から高学年まで系統性のある指導を図る。
 - ・基本的なボール操作とボールを持たないときの動きを知り、役割を踏まえた簡単な作戦を選ぶことができるようにする。
 - ・児童の発達段階を踏まえて、ランプレーや手渡しパスに限定したゲームや、「3対2」といった攻めるチームに数的優位を持たせた成功機会が多いゲームにする。
 - ・人間関係や運動技能等を考慮したグルーピングにする。

学習の過程の視点から

単元目標の設定、主体的・対話的で深い学び

単元の目標を達成した具体的な姿について、子供と共有する場面を設定する。自身の学びや変容を自覚し、自己の考えを広げたり深めたりする場面を設定する。また、自己の課題を見付け、試行錯誤を重ねながら思考を深め、よりよく解決する学習過程を設定する。

- ・単元のはじめに、示範映像を見てゲームイメージをつかみ、試しのゲームをすることで単元目標を共有したり、目指す具体的な姿に向かって見通しをもって活動したりできるようにする。
- ・フラッグフットボールの簡単な作戦（図1）について、学習資料やICT機器を活用したり、子供と共に実際に動いて示したりしながら確認する。
- ・作戦がうまくいったかどうかを直ちにフィードバックできるように、攻撃のたびにハドル（作戦会議）の場面を設定する。ハドルでは、作戦を立て、それぞれの役割行動を明確にすることを確認する。
- ・できるようになった動き、見つけた動きのポイントや分かったこと等、単元前半の試しのゲームの姿と、単元後半の作戦に照し合せたゲームの姿を見比べながら振り返りまとめることで、自己の学びや変容が自覚・実感できるようにし、資質・能力の育成につなげる。

フラッグフットボールの簡単な作戦の例



図1 小学校体育（運動領域）指導の手引
～楽しく身に付く体育の授業～より

